

【参考和文】

2017年2月1日

サンフランシスコ市長
エドウィン・M・リー 様

常日頃より大阪市との姉妹都市交流にご尽力いただき、大阪市民を代表してお礼申し上げます。

サンフランシスコ市芸術委員会において、慰安婦正義連合からサンフランシスコ市に寄贈予定の慰安婦像のデザインが1月9日に承認されるとともに、1月18日には芸術委員会のビジュアルアート委員会において、碑文についても2点修正の後、全員一致で承認されたと聞いた。

慰安婦問題に関しては、日韓両国政府の一昨年（2015年）の12月の合意において、日本が多数の女性の名誉と尊厳を傷つけたとして責任を表明し、この問題を最終的かつ不可逆的に解決すること、そして今後国際社会において互いに非難・批判することを控えることで合意した。この合意については、米国政府も支持し、その着実な履行を注視している。元慰安婦の方々の支援を目的として韓国政府によって設立された財団に資金を拠出するなど、日本政府はすでに合意の責務を果たしたと認識しており、現在、日韓両国政府が合意の実施に向け努力している最中にある。その中で貴市における慰安婦像や碑文の設置の動きは本市にとってこの合意の精神を傷つけるものであるといわざるを得ず、大変遺憾である。

もちろん過去を直視し、世界各国が共有する普遍的価値のひとつである女性の尊厳と人権を尊重する世界をめざすことは重要である。しかし、歴史研究者の間でも議論が分かれる慰安婦の数、旧日本軍の関与の度合い、被害の規模について、不確かで一方的な主張をそのまま歴史的事実として碑文に記することは、歴史の直視ではなく日本批判である。

サンフランシスコには日本人・日系アメリカ人が多く暮らしている。また大阪をはじめとする日本各地からの観光・ビジネス客も多く訪れている。もし疑義のある不確実な文言と日本のみを非難の対象とした文言が碑文に含まれたまま貴市芸術委員会において承認され、この碑文とともに慰安婦像が公共の公園に設置されることになれば、地域に分断を持ち込むこととなりかねず、両市の交流、果ては日米関係にも悪影響を及ぼすのではないかと大変懸念している。

本年は姉妹都市提携60周年を迎える記念すべき年である。昨年8月にはリー市長と直接対話も行き、良好な信頼関係が構築できたと考えている。今後も貴市とは未来志向でのさらに強固な関係を築きたいと願っているところであり、この問題について姉妹都市の市長として貴殿の慎重な対応を強く望む。

なお、この書簡については、サンフランシスコ市民の皆様はもとより、大阪市民の皆様を含めて広く知っていただきたいとの趣旨で、公開書簡とさせていただきますのでご理解ください。

大阪市長
吉村 洋文